

山梨県若手研究者奨励事業 研究成果報告書

報告書提出：2024 年 4 月

山梨英和大学 人間文化学部

三井 さや花

1 研究テーマ

多文化共生社会における在留外国人に対する日本語教育及び情報伝達への支援

(研究期間：2023 年 8 月～2024 年 3 月)

2 研究の目的

山梨県の地域日本語教育及び多文化共生社会の実現に寄与するため、(1) 日本語の数量表現を中心とした、在留外国人が日本語を使用する際のミスコミュニケーションの解消、および(2) 外国籍児童生徒の保護者向け通知文書へのアクションアイコンの付加による情報伝達支援を目的とし、研究を行う。詳細は以下の通り。

(1) 日本語の数量表現を中心とした、在留外国人が日本語を使用する際のミスコミュニケーションの解消

筆者はこれまで日本語の数量表現を研究テーマとし、外国人日本語学習者の作文に起こる誤用や非用を考察してきた。その中で、「数年」や「数人」など、複数を表す接頭辞「数N」の数のイメージが日本語母語話者と日本語学習者で大きく違う可能性に気がついた。本研究では、アンケート調査を通じて、実際にどれくらいのイメージのギャップが生じているかを明らかにし、日本語教育に活かす方法を模索する。地域日本語教育にこの観点を盛り込むことで、外国籍住民と日本人のミスコミュニケーションを防ぐ。

(2) 外国籍児童生徒の保護者向け通知文書へのアクションアイコンの付加による情報伝達支援

多文化共生社会の実現に向けて、日本語での情報発信のあり方も検討が必要である。筆者はこれまで、学校における保護者向け通知文書(お便り)に、内容をわかりやすくするためのピクトグラム(「アクションアイコン」と名付けた)を付加する研究を行ってきた。この研究をさらに進め、アクションアイコンが日本人保護者および外国人保護者双方の情報理解に有用であるかの調査を行い、アイコンの改良を行っていく。これにより、学校現場での外国籍および日本人保護者へのスムーズな情報伝達が期待される。

3 研究の方法

(1) 日本語の数量表現を中心とした、在留外国人が日本語を使用する際のミスコミュニケーションの解消

先行研究やパイロット調査から、接頭辞「数N」(「数年」や「数人」など)の理解に、主に中国人日本語学習者と日本語母語話者の間にずれが生じている可能性が明らかになった。しかし、接頭辞「数N」の中の、どのような語彙や文脈でずれが発生するかは明らかになっていない。そ

ここで、中国人日本語学習者と日本語母語話者に語彙や文脈を設定したアンケート調査を行い、そのずれをあぶりだしていく。また、非漢字圏の日本語学習者にも同様のアンケート調査を実施できるかを検討する。

(2) 外国籍児童生徒の保護者向け通知文書へのアクションアイコンの付加による情報伝達支援

学校からの通知文書の読解は外国籍保護者にとって困難であるが、日本語母語話者にとっても負担となっている。そこで、筆者らが開発した「アクションアイコン」が日本人保護者にどう受け取られるか、アイコンに改善点があるか等のインタビュー調査を行う。また、外国籍保護者にもアイコンがどう評価されるか、改善点があるか等のインタビュー調査を行い、調査結果を反映させながら、アクションアイコンの改良を行っていく。

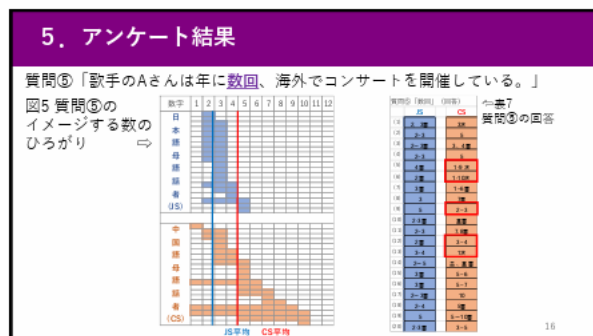
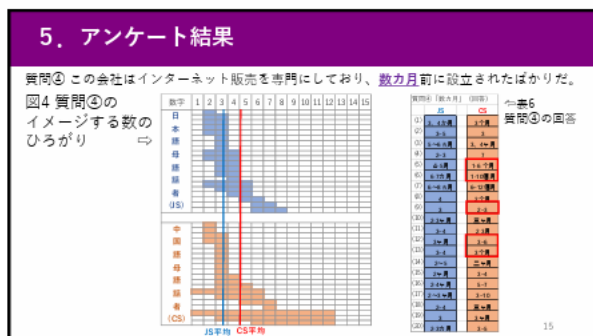
4 研究の成果

(1) 日本語の数量表現を中心とした、在留外国人が日本語を使用する際のミスコミュニケーションの解消

日本語の複数表現の一つである接頭辞「数N」について、国立国語研究所の「現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)」から使用頻度の高い上位5つ「数年」「数日」「数人」「数カ月」「数回」を抽出し、コーパスでの使用状況を参考にした上で、質問文を作成した。パイロット調査として、質問文上の「数N」にどんな数字をイメージするかについて、中国人日本語学習者と日本語母語話者各20人にアンケート調査を行った。このパイロット調査では、平均値には有意差が出なかったが、中国人学習者の方が明らかに大きな数字を答えた設問があった。この結果は、2023年9月に行われた「第54回中国語話者のための日本語教育研究会」で発表し、最大値平均と最小値平均では有意差がでるのではないかなど、有益な助言を得た。

図1 「第54回中国語話者のための日本語教育研究会」発表スライド（抜粋）

第54回 中国語話者のための日本語教育研究会 接頭辞「数N」に関する 中国語母語話者と日本語母語話者のイメージのずれ 日 時：2023年9月9日(土) 16:40-17:10 発表者：三井 さや花 山梨英和大学 専任講師（特任）／ 一橋大学大学院言語社会研究科 博士1年	1. はじめに ・日中で同じ漢字を用いる語・形式 「ずれ」が生じる可能性 ・日中同形漢語の意味・用法の違いについては、1970年代から現在に至るまで様々な分類や記述的な研究がなされてきた（松下ら2020） ・これまでは主に動詞、名詞、副詞など ⇒差異が気づかれにくい形式もある ⇒接頭辞「数N」（数人、数年など Nは名詞または助数詞） ・数N：日本語母語話者間でも想起する数についてずれがある ⇒日本語母語話者と中国語母語話者の間では？
2. 接頭辞「数N」（日本語） ・接頭辞：独立の語としての機能を持たず、他の語の前について語調を強めたり意味を添えるもの（『精選版日本国語大辞典』） ・複数（多数）性を意味する接辞（仁田1997） 漢語系接頭辞の一つ「数（数人、数巻、数語、数日、～）」 ・辞書の説明（『精選版日本国語大辞典』） 数（すう）「三、四か、五、六など、いくつかの数量を漠然と表す語。数えられるくらいのかず。」 数年（すうねん）「三〜四年、五〜六年ぐらいの年数をばくぜんという語」 ※数人、数回も項目として存在し、同様の説明	2. 接頭辞「数N」（中国語） ・中国語にも同様の「数N」の形式 e.g. 拉海纳重建需数年，耗资数十亿美元，夏威夷州州长称任重道远（ラハイナの再建には数年、数十億ドルかかるとハワイ州知事） ・「数」（名詞shu4） 『中日辞典』⇒「若干の、いくつかの」 『日中辞典』⇒「不定のかず」。「几」「好几」と共に記載あり。 「数」はややかたい言い方で書面語、「几」は基本的には1〜9の間の数に変わるが、一般には3〜6ぐらいをさす。 ・「数人の学生」⇒「几个学生」「好几个学生」 「几」を使うか、「好几」を使うかでニュアンスの違いあり



本研究会の発表のまとめ以下のとおりである。

- ・接頭辞「数 N」が使われる文の数認識について、日本語母語話者と中国語母語話者の間で認識が大きくずれる可能性がある
- ・日中に両形式があり、基本的に同音同義形式であるため、その「ずれ」はこれまで気づかれにくかった
- ・大きな傾向として「日本語母語話者の大部分が 5 以内の数字をあげる」「中国語母語話者の一定数が 6 以上の数字をあげる」という結果である
- ・中国語母語の日本語学習者は、個人差が大きく、日本語母語話者がほぼイメージしない 7 以上の大きな数字をあげることがある
- ・今後、個人差のレベルを超えた団体差がもっとはつきり出るか。引き続き研究を続ける

その後、研究会発表での助言をふまえて、アンケート質問文を修正・追加し、本調査を行った。調査は主に Google フォームを使用して行った。2024 年 1 月までに中国人日本語学習者 60 名、日本語母語話者 62 名のデータがそろったため、2024 年 2 月～3 月にかけてデータ整理と分析を行った。アンケート項目と平均値等の結果は以下の通りである。

【本調査のアンケート項目と結果】

- ・国籍・母語・性別・年代+日本語学習者の場合は、日本語のレベル、日本語学習歴
- ・以下の文の「数 N」部分について、頭に思い浮かんだ「数」を書くように指示。中国語母語話者の場合は、指示文を日本語と中国語で併記している。

(1) 「この会社には数年前に一度来たことがある。」

1 群 CS (中国語話者) 平均 6.28 標準偏差 4.07 最大値平均 7.77 最小値平均 4.75

2 群 JS (日本語話者) 平均 3.77 標準偏差 1.61 最大値平均 4.37 最小値平均 3.16

(2) 「山田さんは、数日を京都で過ごした後、東京に戻った。」

1 群 CS (中国語話者) 平均 5.9 標準偏差 2.74 最大値平均 7.45 最小値平均 4.35

2 群 JS (日本語話者) 平均 3.29 標準偏差 1.21 最大値平均 3.79 最小値平均 2.79

(3) 「その絵画には数人の女性が描かれている。」

1 群 CS (中国語話者) 平均 5.81 標準偏差 6.37 最大値平均 7.23 最小値平均 4.38

2 群 JS (日本語話者) 平均 3.90 標準偏差 1.05 最大値平均 4.48 最小値平均 3.32

(4) 「この会社はインターネット販売を専門にしており、数カ月前に設立されたばかりだ。」

1 群 CS (中国語話者) 平均 4.23 標準偏差 1.81 最大値平均 5.27 最小値平均 3.2

2 群 JS (日本語話者) 平均 3.96 標準偏差 1.55 最大値平均 4.48 最小値平均 3.44

(5)「歌手のAさんは年に数回、海外でコンサートを開催している。」

1 群 CS (中国語話者) 平均 5.31 標準偏差 2.79 最大値平均 6.51 最小値平均 4.11

2 群 JS (日本語話者) 平均 3.38 標準偏差 1.32 最大値平均 3.92 最小値平均 2.84

(6)「ここ数年の傾向として高級志向が強まり、食料品の売れ方に変化が起こっている。」

(“ここ”という代名詞を付加することで数字に変化があるかを見る設問)

1 群 CS (中国語話者) 平均 5.9 標準偏差 3.57 最大値平均 7.1 最小値平均 4.7

2 群 JS (日本語話者) 平均 3.67 標準偏差 1.60 最大値平均 4.23 最小値平均 3.25

(7)「母語 (中国語／日本語) で「数～」(数年、数人) という文字を見たときに、すぐに思い浮かべる数はどれぐらいですか。」

1 群 CS (中国語話者) 平均 8.12 標準偏差 14.13 最大値平均 9.25 最小値平均 6.98

2 群 JS (日本語話者) 平均 3.49 標準偏差 0.88 最大値平均 3.97 最小値平均 3.02

(8)「母語 (中国語／日本語) の「数～」(数年、数人) という文字を見たときに、絶対イメージしない数・許容できない数はどれぐらいですか。」

→平均などが出せないため、分析方法を検討中。

図2 設問(1)のデータの視覚化

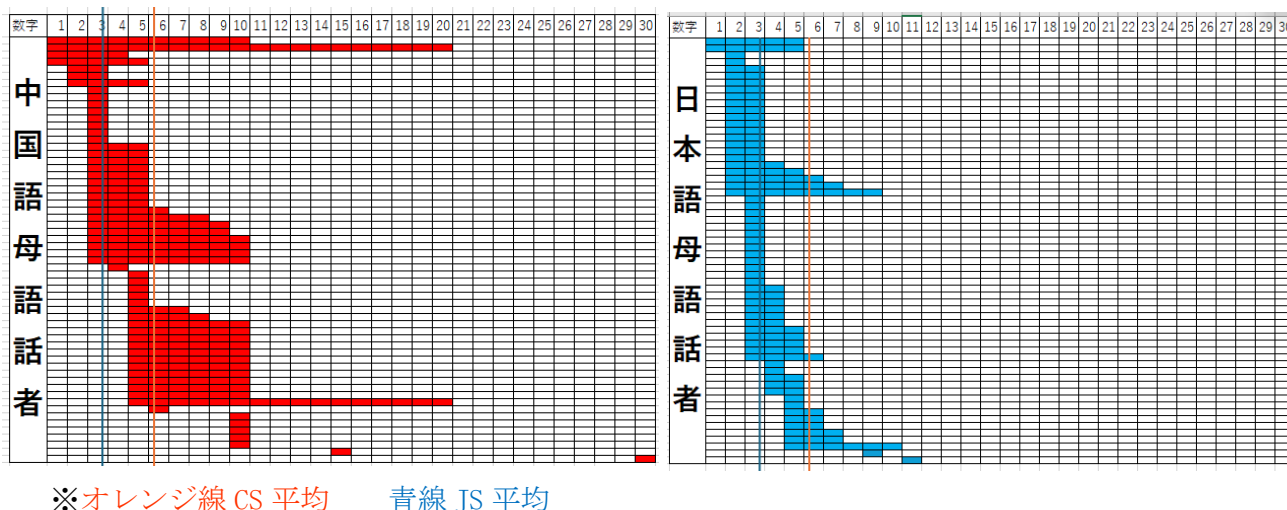
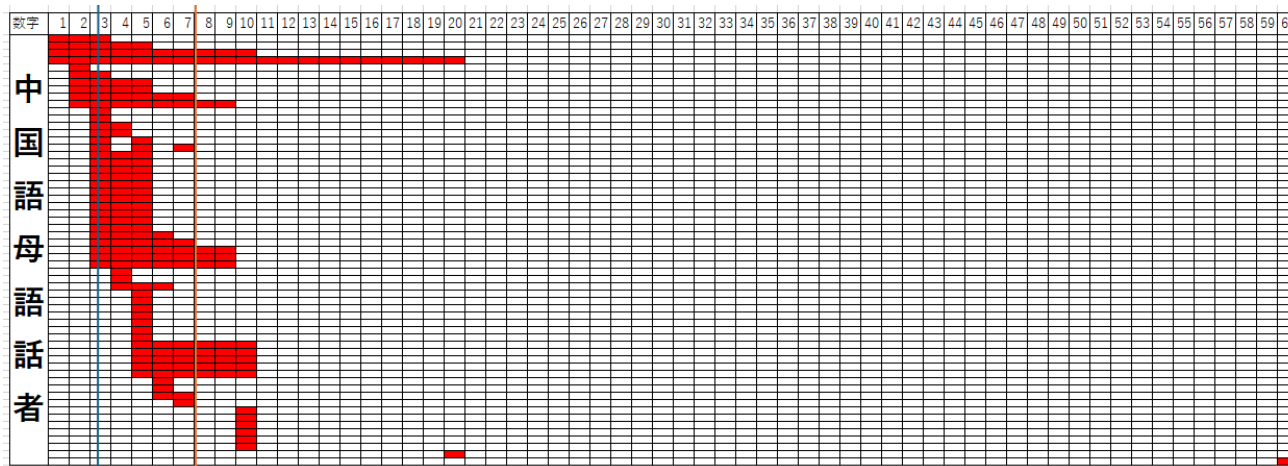
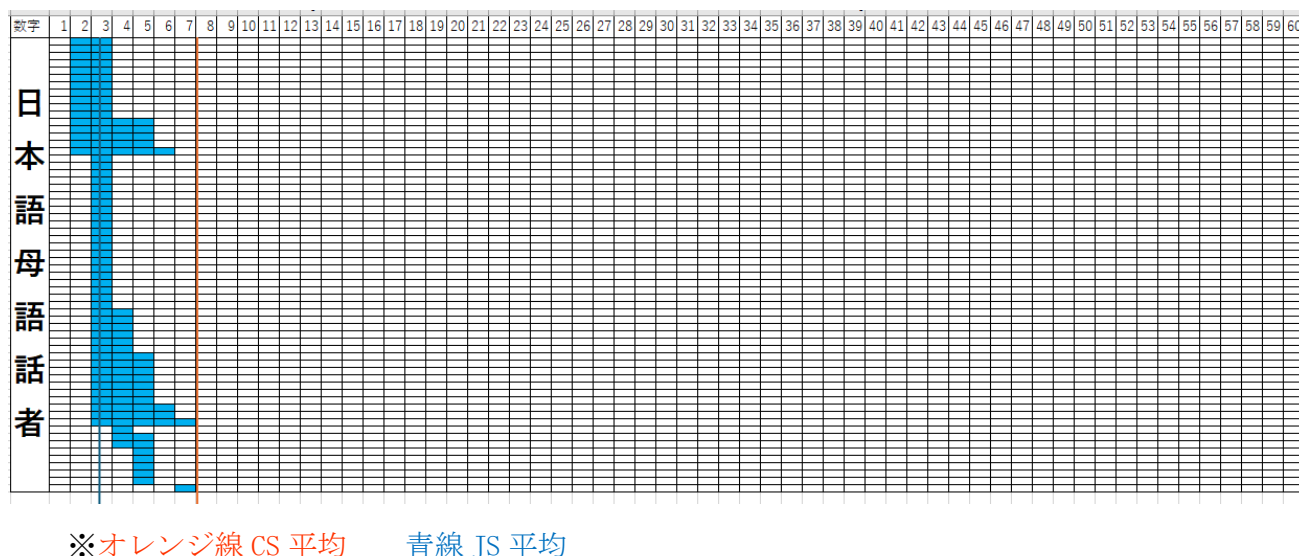


図3 設問(7)のデータの視覚化





分析は現在統計手法を検討中であるが、シャピロウィルク検定により正規性が保証されない項目があったため、マンホイットニーの u 検定で平均値の有意差をみていくのが妥当だと考えられる。さまざまな検定方法による分析を試行しているところであるが、t 検定の数値では、「数年前」「数日」「年に数回」といった項目で、日本語母語話者より中国人日本語学習者の方が有意に大きな数字をイメージする可能性が示された。例えば、ある文中の「数年前」という表現で、日本人は平均 3.77 年をイメージするのに対し、中国人は平均 6.28 年をイメージし、有意に大きな数字であることがわかっている（図 2）。一方で、「数カ月前」という表現では、中国人（平均 4.23）の方が日本人（平均 3.96）よりイメージする数字の平均値は高いものの、有意差はでなかった。これは、1 年の上限が 12 カ月で、数値の天井が限定されているため、差が開かなかったと考えられる。また、文脈を指定しないで「数 N」の数字イメージを聞いた設問（上記設問（7））では、中国語母語話者の平均 8.12 に対し、日本語母語話者の平均は 3.49 となっており、その差は 2 倍以上である。さらに、日本語母語話者の標準偏差は 0.88 とばらつきが少なく、最大値平均と最小値平均を見てもわかるとおり、日本語母語話者の数字イメージは非常に均質的である。一方、中国語母語話者の数字イメージはばらつきが大きい（図 3）。これには、やはり数字に関するミスコミュニケーションが潜んでいるといえよう。詳細は分析中だが、今後この結果を論文にまとめ、2024 年中に学会誌へ投稿を行う予定である。

（2）外国籍児童生徒の保護者向け通知文書へのアクションアイコンの付加による情報伝達支援

筆者らが開発した初期の「アクションアイコン」の種類について、その妥当性を検証するため、追加で小学校 2 校の通知文書 163 通を共同研究者と目視で確認した。その後 8 種類の「アクションアイコン（第 2 版）」を開発し、日本人保護者 3 名にインタビュー調査を行った。改定した「アクションアイコン（第 2 版）」は日本人保護者全員から「わかりやすい」という肯定的な評価を得た。また、アイコンの視認性に関する助言を得た。この結果は、2023 年 9 月に行われた「2023 年秋季一橋日本語教育研究会」にて口頭発表を行った。本研究会発表の要点は次のとおりである。

- ・本研究では、先行研究（三井・三井 2023）で開発した 8 種類のアクションアイコンに改定を加え、日本人保護者による評価を行った
- ・アイコンは日本人保護者にとってもわかりやすい（読解の際に邪魔にはならない）
- ・発達障害などの文章読解に困難を抱える保護者にも有効
- ・教員が既存の通知文書にアイコンを付加する際、情報の提示方法について見なおす可能性あり（負担を与えないで、内省を促す効果）
- ・今後の展開として、日本人保護者から出たアイコンの改善点を反映し、外国人保護者への聞き取り調査を実施し、アクションアイコンのさらなる改良を目指していく

本発表ではアイコン改良にむけての助言を得た。さらに、アイコン以外の情報伝達要素にも注意を向けるべきとの指摘があった。ここまでの成果は、山梨大学教育統括機構紀要に投稿し、現在印刷中である。

研究会発表の助言を受け、アイコンの改良を進めると同時に、「情報伝達の最大公約数」についての観点も検討を開始した。先行研究の観点を学校の通知文書に援用したことで、アイコンなどの視覚情報に加えて、情報の提示順やレイアウト、情報の取捨選択にも配慮をすべきだということがわかった。この結果は、2024 年 3 月に行われた「2024 年日本教育工学会春季全国大会」で発表した。学会発表の要点は次のとおりである。

- ・学校の通知文書（お便り）は長年の慣例によって作成されることが多いが、読み手の多様化、特に外国籍児童生徒の保護者に対応できていない
- ・アクションアイコンの研究に加え、通知文書全体の効果的な情報伝達についても検討すべき
- ・日本語教育の文脈で野田（2014）が提唱する「非母語話者にとってわかりやすい日本語」の 3 つの観点を学校の通知文書にも援用すべき
- ・「伝達手段（文字情報以外の手段）」という観点では、イラストや写真の使用はもちろんのこと、これまで検討してきた「アクションアイコン」が効果的である
- ・「伝達様式（情報の提示順やレイアウト）」では、情報の軽重を考えて、情報の提示順やレイアウト、統一した様式を検討すべきである
- ・「伝達内容（情報の取捨選択）」では、相手が受け取っても意味のない不要な情報を伝えないこと、相手の求める具体の情報を追加すること、情報の重複を避けることを検討すべきである

当該発表では、多くの方から好意的な評価を得られ、愛媛県にある認定こども園の経営者から研究協力の申し出があった。情報伝達の観点を園内の研修で伝え、暫定版のアイコンでも使用を開始したいとのことであった。そこで、試験的に、当該こども園の外国籍（ナイジェリアおよびジャマイカ人）保護者にアイコンの評価をしてもらった。筆者も現在、外国籍保護者へ「アクションアイコン（第 2.5 版）」についてのインタビュー調査を行っている。以下、外国人の保護者（未就学段階は「学校」を「こども園」に変えている）へのインタビューに使用している最新版のアイコン 8 種類と説明（英語版）を示す。

図4 アクションアイコン Action Icons (ver. 2.5, for elementary school)

学校へ行く Go to school When parents need to go to school. e.g. parent's day, PTA activities	作業 Work When parents need to work at home. e.g. Write child's name in the textbook.
持ち物 Things to bring When your child has to bring something special. e.g. lunch pack, dust cloth	学校休み No school When school is closed. e.g. compensatory holiday
イベント Event When there is an event at the school and parents need to know about it. E.g. field day	提出 submission When you have something to submit to the school. e.g. Allergy Questionnaire
確認 Confirmation When parents specifically need to know e.g. long vacation periods	必要な人だけ Applicable person only ※他のアイコンと組みわせて使う ※Used in combination with other icon

図5 アクションアイコンを付加した通知文書（お便り）のイメージ図

●●小学校6年生 ●●年4月26日発行 第2号

6年 学年だより

若葉がまぶしい季節です

6年生になって1ヵ月が経ちました。4月は学校行事も多く、忙しく月日が過ぎていきました。子どもたちは、新学年としての自覚が芽生え、学校の中心となって学校生活を過ごしています。授業参観の日にも驚いたかも知れず、嬉しそうに準備ができました。

先日は、授業参観が行われました。児童会役員は、毎日、休み時間や放課後を回り、準備や打ち合わせを進めてきました。また、委員会の委員長は、担当の先生や委員会の仲間と相談しながら適切に選べるように準備を進めてきました。全校の前に立つことは緊張することです。しかし、この経験が子ども達をさらに成長させてくれるはずです。緊張の中でも自分の役割を懸命に果たそうとする姿に成長を感じました。朝日から大型連休となります。夜元もあり、大きな節目を迎えることになります。健康や安全に留意して、充実した連休となることを願っています。

★★★お知らせとお願い★★★

1 週上総会へ向けて
6月0日(水)に実施される週上総会へ向けて活動が5月0日(水)からスタートします。この週上総会では、〇〇市の各6年生が集まり実施されます。各校の6年生と交流を深めることができるよい機会でもあります。

2 週上総会へ向けた活動準備では、〇〇の全児童が対象となります。子ども達には、毎日10分を少しでも更新できるように頑張ってもらいたいと思います。期間中は下駄箱が16時55分になります。いつものように着替えが、ご確認をお願いいたします。練習日程等は、随時にお知らせいたします。なお、ご家庭の都合で練習練習にご参加できない場合は担任までご連絡ください。

3 〇〇の全児童が対象となる〇〇〇が5月0日(水)に実施されます。今年度は縦割りのリーダーとして先生が立ち、下級生を引っ張っていく立場となります。どのような活動で出るのか子ども達も考えています。そこで、大型連休中に〇〇〇と大行進で歩くコースを事前に歩いてみることをお勧めします。そして、見学場所を下見し、事前学習として下級生にその意図を伝えてほしいと思います。もちろん、保護者のみなさんで一緒に歩くだけでも結構です。ご協力をお願いします。

4 シャトルラン実施に関して
現在、体育の授業を中心に体力テストを行っています。今後、「20mシャトルラン」を行う予定です。これは、規定時間内に体育館を何往復できるかを測る持久力系テストとなります。安全管理に配慮するため、20mシャトルランは保護者の監督を要する実施となります。規定時間内に「四重奏」を聴かせますので、お子さんの体調をよく観察していただき、参加が可能な場合は四重奏の演奏をお願いします。

5 家庭訪問お便りになります
5月0日から家庭訪問が行われます。訪問時間は先日の予定表をご確認ください。短時間ではありますが、ご家庭と情報交換をさせていただきたいと思っております。時間とおりの訪問をお願いします。訪問時間が多少前後する可能性もあります。どうぞよろしくお願いいたします。

保護者各位

〇〇市立〇〇小学校
学校長 〇〇〇〇

授業参観・学級懇談会の開催について

新年度初めの授業参観・学級懇談会を次の通り行います。ご多用とは思いますが、ご出席くださいますようお願いいたします。なお、児童1名につき保護者1名の参加とさせていただきます。児童玄関からお入りいただき、下足は下駄箱の上に置いてください。

1. 日にち
 - 1・2年生 〇月〇日(水)
 - 3・4年生 〇月〇日(木)
 - 5・6年生 〇月〇日(金)
2. 内容
 - 授業参観 午後〇時〇分～〇時〇分
 - 学級懇談会 午後〇時〇分～〇時〇分
3. 場所 各教室
4. 参観の方法
 - 参観の5分前に教室前にお集まりいただき、担任の指示のもと、教室後方より入室ください。児童が授業に集中できなくなるため、写真撮影等はご遠慮ください。
5. 学級懇談会の内容
 - 1年間の学年経営、生活、学習目標について。会計・役員の承認。

〇PTA 執行部会、専門部会、学校委員会、PTA 総会については、次の日程になります。

筆者自身も、2024年3月中に、3名の外国籍児童の保護者にインタビューを行った。山梨県内の外国籍児童生徒の国籍の上位は、中国、フィリピン、ブラジル、ペルーであり、児童生徒の保護者も同じ国籍だと考えられる。今回は、上位に入っている中国・フィリピン・ペルー人の保護者（各1名）にインタビュー調査を行い、アイコン改定のための助言を得ている。ここまでインタビュー調査を行ったところでは、「作業」「イベント」「必要な人だけ」のアイコンが理解しにくいとの意

見が多かった。また、幼稚園段階の親の方がすべきことが多く、小学校段階より幼稚園段階の通知文書でアクションアイコンの必要性が高いとの意見が複数あった。関連して、幼稚園等では現金で絵本代や習い事の代金を徴収することが多く、「支払い (Payment)」のアイコンが必要だという強い要望もあった。その際、日本語のほかに英語でアイコン名を入れる方がよりわかりやすいとの意見も複数あった。試行して作成した「支払い」のアイコンは図6の通りである。

図6 「支払い」のアクションアイコン／英語併記あり



今後、ブラジルやベトナム等の外国人保護者のインタビューを追加し、結果を集約し、第3版のアクションアイコンの開発につなげていく。論文化も検討中である。

5 今後の展望

(1) について

アンケート調査の分析をすすめ、論文投稿を行う。「数N」のアンケート調査は、現在インドネシアの大学の協力を得て、同様の質問項目でインドネシア人日本語学習者のデータもとっている。中国語は漢字文化圏であり、「数～」という同形式の語彙が存在していたが、インドネシア語は非漢字圏で、そのまま聞くことができない。そこで、「数N」と同じ意味である“beberapa” (beberapa tahun, beberapa orang) という形式で質問をしていくこととした。中国語以外の言語では、類似の形式で聞いていくしかないことがわかった。

また、ベトナムの大学でもアンケート調査が実施可能であり、中国以外の日本語学習者とも比較できるように検討中である。さらに、接頭辞以外の数量表現（「若干」「何人か」「いくつか」など）についても調査を行うか検討していく。

(2) について

アクションアイコンおよび情報伝達の工夫については、研究協力者の文書で試験運用中であり、外国籍保護者のインタビュー結果と共に論文化を考えている。学会発表では、発表後に多くの現職教員の方や学校関係者、企業の方に声をかけていただき、アイコンの実用化が期待されている。今後、試験運用やインタビュー調査の結果を踏まえ、「アクションアイコン」の最終版を確定し、ウェブ上で無償公開、学校（幼稚園）現場で広く使用してもらうことを目指す。

6 研究成果の発信方法（予定を含む）

当該研究に関して、2023年度中に研究会／学会発表を3回行い、紀要論文1本を執筆した。発表や論文化の際は、山梨県若手研究者奨励事業費補助金を受けた旨、資料に明記している。

(1) について

【研究会発表】三井さや花 (2023) 「接頭辞「数N」に関する中国語母語話者と日本語母語話者のイメージのずれ」第54回中国語話者のための日本語教育研究会 (2023.9)

(予定) 現在統計をかけている本調査の結果は、2024 年中に「中国語話者のための日本語教育研究会」研究会誌または「日本語教育学会」学会誌に論文を**投稿予定**

(2) について

【研究会発表】三井さや花 (2023) 「外国人の保護者向け通知文書における情報伝達補助の試み — 「アクションアイコン」の改良と日本人保護者の評価—」2023 年秋季一橋日本語教育研究会 口頭発表 (2023. 9)

【論文投稿】三井さや花 (印刷中) 「多文化共生社会における小学校通知文書の情報伝達補助の試み— 「アクションアイコン」の改定と日本人保護者の評価—」山梨大学教育統括機構紀要

【学会発表】三井さや花, 三井一希 (2024) 「小学校の通知文書における「情報伝達の最大公約数」に関する一考察」2024 年日本教育工学会春季全国大会 口頭発表 (2024. 3)

(予定) 外国籍保護者へのインタビュー調査の結果と改訂版のアクションアイコンについては、2024 年度中に「日本教育工学会」学会誌に論文を**投稿予定**

7 本報告書中の参考文献（上記 6 以外のもの）

- ・朝日新聞デジタル (2022) 「学校の欠席連絡、連絡帳からスマホにでも変わらぬ『プリント地獄』」2022 年 4 月 10 日付け
- ・公益財団法人山梨県国際交流協会「YIA Newsletter」2022 年春 (Spring 2022) 号
- ・中俣尚己 (2015) 「中国語話者による数量詞構文の習得—語順に着目して—」中国語話者のための日本語教育研究会編『中国語話者のための日本語教育研究』第 6 号 pp. 18-33
- ・野田尚史 (2014) 『「やさしい日本語」から「ユニバーサルな日本語コミュニケーション」へ—母語話者が日本語を使うときの問題として—』日本語教育, 158 : 4-18
- ・福永由佳 (2020) 『日本語教育学の新潮流 27 「成人教育(adult education)としての日本語教育：在日パキスタン人コミュニティの言語使用・言語学習のリアリティから考える』ココ出版
- ・三井一希, 三井さや花 (2023) 「保護者向けプリント資料に付加する「アクションアイコン」の検討」山梨大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要、28 : 285-294
- ・三井さや花 (2023) 「複数を表す接尾辞「たち」の誤用分類の試み—日本語学習者の作文にみる複数形の誤用系統—」『一橋日本語教育研究』11 号、一橋日本語教育研究会、pp. 75-89
- ・三井さや花 (2013) 「英語母語話者による日本語名詞の複数形の産出について—英語と日本語の複数認識のずれ—」『日本語教育』154 巻、日本語教育学会、pp. 115-122
- ・『現代日本語書き言葉均衡コーパス』中納言 2. 7. 2, データバージョン 2021. 03, 国立国語研究所, <https://chunagon.ninjal.ac.jp/>

8 おわりに

以上の通り、本研究では 2 つの観点から、山梨県の地域日本語教育及び多文化共生社会の実現に寄与するための研究を行ってきた。本事業の助成金により、研究活動が円滑に進み、密度の濃い非常に有意義な研究が行えたと考えている。

山梨県、審査にあたってくださいました先生方、県民生活部私学・科学振興課のご担当者様、ご関係の皆様へ厚く御礼申し上げます。今後も、山梨県の多文化共生社会の実現に向けて、研究・教育活動を進めてまいります。